

政治分野での日本のジェンダー平等度は、世界 153 か国中 144 位

2019 年 12 月
認定 NPO 法人日本 BPW 連合会
理事長 平松昌子

この数字を見て、殴られたようなショックを感じました。2018 年 5 月、「政治分野における男女共同参画推進法」が施行され、統一地方選挙や参議院選挙を経験し、女性を受け入れる風が吹き出しているような気持ちになっていたからです。

つい最近、フィンランドでは 3 人目にして最年少の 34 歳の女性首相が登場し、閣僚の大半が女性との報道を見て、凄いなとは思いましたが、それは北欧だからと半分自分ごとにはしていませんでした。さらに、2019 年 11 月に日本で開催した BPW 東アジア地域会議でも参加者の国である台湾や香港はトップが女性で、他国での女性活躍を見ながらも、日本では、それなりに進んでいると思っていました。でも、日本には女性首相が誕生する気配すら無いことを思い案じていたところに、この結果です。

GGGI の数字について、メディアが日本は、前回より一歩後退と報じたのを見て、やはりと思ったものの、改めて報告書原本に目を通し、政治分野で日本が最下位から 10 番目の 144 位にあることを確認したとき、言いようのないショックを感じたのです。これについて、簡単に、所見を述べたいと思います。

◆まずは、日本の数字を見てみましょう。

GGGI（以下、男女格差指数）は、女性の数字を男性の数字で割った比率で、格差が無ければ「1」になります。

また、分野は、政治、経済、教育、健康の 4 種に分けられ、総合順位が決まります。

2019 年日本の男女格差指数は、総合で 0.652 であり、順位は 121 位です。この統計が始まった 2006 年と比較すると、スコアでは僅かによくなっていますが順位は 79 位から 121 位に下がりました。これは対象国数が増えた影響もありますが、各国の格差解消のスピードに日本が置いて行かれている結果といえます。

日本の GGGI（男女格差指数）

	2019 年（今回）		2018 年（前回）		2006 年（初回）	
	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位
総合	0.652	121 位	0.662	110 位	0.645	79 位
政治	0.049	144 位	0.081	125 位	0.067	83 位
経済	0.598	115 位	0.595	117 位	0.545	83 位
教育	0.954	91 位	0.994	85 位	0.986	59 位
健康	0.979	40 位	0.979	41 位	0.98	1 位
対象国数	153 か国		141 か国		115 か国	

ちなみに上位 5 カ国は ①アイスランド ②ノルウェー ③フィンランド ④スウェーデン ⑤ニカラグアです。

日本の政治分野について判定要素を見ると

	スコア	順位
政治の権限	0.049	144 位
衆議院の女性議員比率	0.112	135 位
内閣の女性閣僚比率	0.056	139 位
女性元首の在任年数（過去 50 年）	0.000	73 位

政治分野の上位 5 カ国は、
①アイスランド ②ノルウェー
③ニカラグア ④ルワンダ ⑤
フィンランドで、アイスランド
のスコアは 0.701 と 2 位より 10
ポイント高くダントツです。

もう一つ、経済の分野でのスコア要素を見ると

	スコア	順位
経済の参加と機会	0.598	115 位
労働参加比率	0.814	79 位
同一労働賃金格差	0.672	67 位
総合所得	0.541	108 位
上級管理職	0.174	131 位
専門職・技術職	0.680	110 位

経済分野の上位 5 カ国は、①ベ
ニン ②アイスランド ③ラ
オス ④バハマ ⑤ベラルー
シ。他に⑪ノルウェーなどです。

◆世界の潮流について、このデータを公表している世界経済フォーラムは「今回の数値について、人口比率などを勘案して計算した男女格差の数値は、68.6%、0.686であり、格差ゼロ『1』になるにはあと 31.4%のギャップを埋める必要である」と指摘しています。GGGI で強調されるのは国別順位より、各国がスコアをどのように伸ばして『1』という数字に近づけたかということで、前回 101 位以上の国々は概ね数値を伸ばしていると指摘しています。

◆今回、政治分野のスコアが 0.1 以下（ギャップが 90%以上）の国は日本も含めて 32 カ国あります。女性議員は、153 か国 35,127 議席の 25%に満たず、3,343 人の閣僚のうち女性は 21%、女性元首が過去 50 年に一度も登場していない国が 153 か国中 85 カ国もある、と指摘しています。

◆経済分野について、世界全体では女性の上級管理職は 36%、職種によっては前回は 2% 上回っています。また成人女性の就業率は、男性の 78%に対して 55%で、賃金については同じ仕事をする男性に対して 40%、所得では 50%の格差があるとも指摘しています。

日本の場合、女性の就労は増えている（労働参加比率 81.4%）ものの、総合所得については 54.1%、さらに上級管理職は 17.4%（131 位）、また専門・技術職の女性比率も 68.9%と前年をやや上回ってはいるものの順位は 110 位のままで、ここにも世界の流れとのギャップがみえています。賃金格差について 67.2%と昨年の 69.6%から下がっていま

す。日本では、手当てなどの項目で賃金構造を複雑にしてきた歴史があり、これが男女の賃金格差を生じさせているとも言われています。

◆教育の分野は比較的格差が減っていると指摘していますが、いくつかの途上国では格差が20%を超えるところがあります。世界全体では、15歳から25歳の女性の10%が文字を読めず、それは途上国に集中しています。女性の進学率が高い国でも、壁があり、その教育がその後の職業等に生かされずに終わっており、更に最も成長が著しいIT産業への女性の進出の遅れが、役割も含めて目立ちます。女性がハイテクに限らず、壁を越えて進出する必要があります。

しかし、日本では、95.4% 91位と昨年99.4% 85位より順位を落としています。高等教育（大学、大学院）の在籍率は108位95.2%と前年92.8%103位よりスコアが上がっても順位を落としています。

◆健康に関しては48か国がほぼ同等のスコアを達成し、71か国が少なくとも97%のギャップを埋めました。

◆もう一つ注目したいのは、用語で、ジェンダー平等（Gender equality）という言葉に代えて、パリティ（Gender parity）が使われていること。つまり男女の同数、等価という表現になって、平等（equality）が消えています。

◆ジェンダーギャップ解消の達成までの年数を、現在の傾向で予測すると、世界の格差の総合は99.5年で埋まりますが、経済分野では、257年を必要とし、政治分野は直近の最速ペースでも94.5年かかり、教育分野は12年で達成すると計算しています。

◆国別ランキングでは、今回もアイスランドが1位（87.7%）でした。2006年にこの発表を開始して以降、最近の11年連続の第1位です。続いてノルウェー（84.2%）、フィンランド（83.2%）、スウェーデン（82.0%）、5位がニカラグア、ニュージーランド、アイスランド、スペイン、ルワンダと続きドイツが10位（78.7%）となります。

◆地域別の男女平等達成度では、西欧が最も進歩しており（76.7%）、続いて北米（72.9%）、ラテンアメリカおよびカリブ海地域（72.2%）、東欧および中央アジア（71.3%）、その後東アジア・太平洋地域（68.5%）サハラ以南のアフリカ（68.2%）、南アジア（66.1%）、中東および北アフリカ（60.5%）と続きます。

出典：http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2020.pdf